

令和7年度

離島・過疎地域づくりDX促進事業

(高齢者等のみまもり支援事業)

(実績報告書)

株式会社おきでんCplusC



おきでん  
CplusC

## 目次

1	弊社概要及び業務実績について.....	- 1 -
	(1) おきでんCplusCの概要と取組について.....	- 1 -
	(2) おきでんCplusCの業務実績について.....	- 5 -
2	取組内容 .....	- 7 -
	(1) 概要 .....	- 7 -
	(2) 事業に当たっての現状認識.....	- 7 -
3	実績報告 .....	- 9 -
	(1) 対象世帯の募集及び選定等.....	- 9 -
	(2) 対象世帯への「みまもりキット」の設置.....	- 15 -
	(3) みまもり支援体制の構築及び運用.....	- 17 -
	(4) アンケート調査の実施.....	- 22 -
4	事業の成果 .....	- 32 -
	(1) 概要 .....	- 32 -
	(2) 詳細 .....	- 32 -
	(3) 事業の波及・実装状況.....	- 32 -

## 1 弊社概要及び業務実績について

### (1) おきでんCplusCの概要と取組について

株式会社おきでんCplusCは、沖縄電力株式会社により、ジャパンインテグレーション、インスパイア・インベストメントと共に、最先端のIT技術を活用して安心・安全な社会を実現する生活サポート事業を展開し、豊かな暮らしづくりを目的とし、2021年5月に設立された事業会社です。

#### <会社概要>



2025年6月30日現在

会社名	株式会社おきでんCplusC
設立	2021年5月13日
授權資本	70百万円
出資構成	沖縄電力株式会社 ジャパンインテグレーション株式会社 株式会社インスパイア・インベストメント
取締役 代表取締役	会長 本永 浩之 社長 宮城 喜一郎
企業理念	ひととひととの <b>結</b> (つながり) を通じて いつまでも元気で笑顔に満ちた暮らしづくりに貢献することで、お客さまに寄り添い、 <b>ココロのエネルギー</b> をお届けします。

これまで事業者等によって行われてきた高齢者の「見守り」は、カメラやマイク、ウェアラブル機器を活用して状況を把握するサービスや、緊急時に駆けつけるサービスなどが展開されてきました。これは詳細に高齢者の状況を把握することができる反面、専用機器の設置等によるコストや、カメラ等で見られているというプライバシー面での抵抗感があることなどの課題があります。

さらに近い将来迫りうる課題として、高齢者人口がピークを迎える2040年には自治体の人手不足や税収減少により、既存の医療・介護サービスの維持が困難になる「2040年問題」が懸念されております。

このような課題に着目し、おきでんCplusCでは、高齢者みまもりを通して、本人や家族へ安心・安全をお届けする「やさしいみまもり」をブランド展開しています。「やさしいみま

もり」では、世界最先端のWiFiセンシング技術を活用し、カメラやマイク等を使わずにプライバシーに配慮した上で、高齢者の屋内における睡眠・活動状況を「見える化」します。

この「やさしいみまもり」を実現するために、おきでんCplusCでは、米国メリーランド大学発ベンチャーOriginWireless Inc.が開発した技術を採用しています。同社は、世界最先端として業界標準をリードするイノベーション企業であり、最先端テクノロジーが集まる世界最大展示会CESでベスト・イノベーションと評されるなど、WiFiセンシング分野で業界をリードしている企業です。独自のAI技術（タイムリバーサル）を用いて、WiFi電波の反射の位相や到達時間のずれを逆算し、わずか30cmの精度で室内の人や物の動き・位置、さらに睡眠時の呼吸などを検出する「WiFiセンシング」を開発・提供しています。

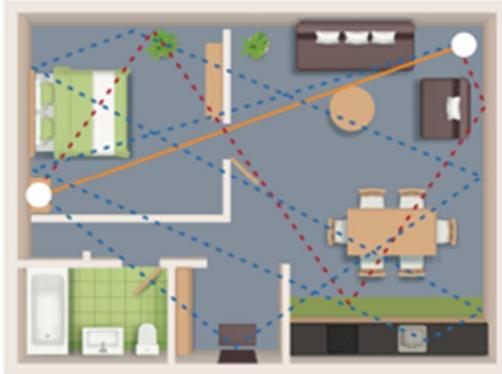
さらに、シンガポールに本社を置くnamiが開発・提供するスマートプラグ型の活動検知センサー及び睡眠検知センサーを採用しています。世界標準規格準拠のIoT機器・ソフトウェア開発ベンチャーnamiは、「インテリジェント・センシング」をビジョンに、家庭・オフィス・工場・物流・倉庫等においてコンセントに接続するだけで、自動点灯・消灯や人の活動・睡眠、不審者検知などを実現するスマートプラグ型IoT機器・ソフトウェアを次々に開発、創業来わずかな期間で欧米通信キャリアやホームセキュリティ最大手企業との商用化・実証事例を実現しています。

namiがOrigin Wireless Inc. と資本業務提携をしていることから、2023年4月、沖縄電力、おきでんCplusC、namiの3社は世界標準規格搭載のIoT機器・ソフトウェアを活用した多彩な事業分野での協業・連携を加速させていくための覚書を締結しました。以降、おきでんCplusC「やさしいみまもり」では、namiが開発・提供するスマートプラグ型の活動検知センサー及び睡眠検知センサーを採用しています。

このような世界最先端のWiFiセンシング技術を活用し、自助による日頃の確認やコミュニケーションが活性化されることにより、共助・公助の負担を減らすとともに、関係者間の情報共有の効率化を図り、地域における面的な高齢者みまもり体制の構築に取り組んでいます。

図表1 : OriginWireless Inc. / nami について

## 2024年世界標準化技術でプライバシーに配慮 世界初最先端のWiFiセンシング技術を活用



**ORIGIN™**

最先端テクノロジーが集まる世界最大展示会

CESで「ベスト・イノベーション」と評された米国オリジン・ワイヤレス社のWiFiセンシング技術を活用。Wi-Fi電波の反射を位相や到達時間のズレを逆算する独自のAI技術（タイムリバーサル）を用いて、わずか30cmの精度で室内の人の動き・位置、睡眠時の呼吸などを検知します。

160以上  
特許申請済

創業者Ray Liu博士はメリーランド大学のDistinguished Professor(荣誉教授)を長く務め、2022年電気・通信工学分野の技術標準化機関IEEE会長に選出、さらに2024年には米国で最も荣誉とされる全米技術アカデミー会員に選出されました。



70以上  
特許保有

IEEEが2024年9月標準化予定のWiFiセンシング規格802.11bfは同社技術がベースになっています。これに先駆け2022年からは同社技術搭載のPhilips IoT電球Wizが世界70カ国以上で販売中。世界最大セキュリティ会社Verisure、世界最大通信会社Verizonなどと戦略提携・サービス実現も進んでいます。

IEEE  
Advancing Technology  
for Humanity



NATIONAL ACADEMY  
OF ENGINEERING



PHILIPS  
WIZ

signify



世界標準スマートホーム IoT 機器通信規格 Matter 対応

プラグ&プレイかんたん WiFi センシング機器を活用



**nami** 世界最先端WiFi  
センシング技術  
の全世界

普及に大きな革新をもたらしたのが、シンガポールに2020年12月設立されたベンチャーnami社。創業者フランス人Jean-EudesとJerome Leroyは世界照明機器最大手PHILIPSブランドを擁するSignify社にWiFiセンシングIoT電球WIZを売却した起業家兄弟

nami社は設立直後の2020年にオリジン・ワイアレス社に出資すると並行して、2021年には全世界独占協業提携契約を締結。これまでのWiFiセンシング端末と比べて圧倒的にコンパクトで安価なスマートプラグを開発・提供。さらにソリューションに応じたさまざまなWiFiセンシングIoT機器を開発、米国通信最大手ベライゾン、ドイツ通信最大手ドイツテレコム、フランス通信最大手オレンジの他、欧米ホームセキュリティ最大手など多数の顧客実績を有しています。



**verizon**

Deutsche Telekom orange

ALARM.COM

verisure

2019年Amazon、Apple、Google、Samsung等が立ち上げたConnectivity Standards Alliance (CSA) 策定しているスマートホームの標準規格Matter。nami社CIO Jeromeは88社の世界的な企業が参加するアンビエントセンシング分科会長として世界をリードしています。

matter  
amazon

SAMSUNG

図表 2：導入イメージ



(2) おきでんCplusCの業務実績について

2021年8月から2022年10月にかけて、おきでんCplusCと沖縄市、宜野湾市、豊見城市、那覇市、宜野座村、南城市、八重瀬町、名護市、浦添市、国頭村、大宜味村、東村は、高齢化の進展に伴う、自治体における高齢者みまもり等の業務負担の増加や、高齢者のみまもりを行う家族の時間的・経済的負担の増加という社会課題を解決し、いつまでも元気で笑顔に満ちた暮らしができる社会の構築を目指して、緊密に連携・協力して共同実証試験の実施に向けた協定を締結し、同12自治体とともに、内閣府が実施する令和3年度・令和4年度沖縄振

興特定事業推進費補助金にて、「ITを活用した高齢者みまもり体制構築実証事業」を実施いたしました。

「ITを活用した高齢者みまもり体制構築実証事業」においては、おきでんCplusC及び関係自治体のHPやSNSでの情報発信、関係自治体の広報誌への記事掲載、新聞やコミュニティラジオ等のメディア対応、自治会や老人クラブ等での個別説明会の開催等、さまざまな手段・媒体を活用した取組を実施いたしました。こうした関係自治体と連携した周知活動や説明会開催により、一人暮らしの高齢者を中心に合計634人にご利用頂きました。

さらに、2022年6月からは、国頭村・大宜味村・東村において、令和4年度離島・過疎地域づくりDX促進事業（高齢者等のみまもり支援事業）を実施しました。同事業は、「やさしいみまもり」を、安心・安全な地域コミュニティの形成を支援することで活性化し、社会課題の解決と持続可能な地域づくりを目指すものです。令和5年度からは伊江村および石垣市が参画し、さらに令和7年度からは、宮古島市、渡嘉敷村、粟国村、南大東村、伊平屋村、伊是名村、久米島町、多良間村、竹富町が新たに加わるなど、離島地域へ段階的に拡大しています。

## 2 取組内容

### (1) 概要

「連絡網の整備及び離島・過疎地域における高齢者等のみまもり体制の構築」

今後、高齢化とともに人口減少や、地域の高齢者福祉等の継続が危惧される離島・過疎地域において、高齢者等とそこご家族・地域関係者まで網羅した連絡網を整備し、遠方に住む家族も参加可能な、ITを活用したみまもりサービスを提供することで、地域の福祉人材の負荷分散を目指し、高齢者福祉の充実を図りました。

### (2) 事業に当たっての現状認識

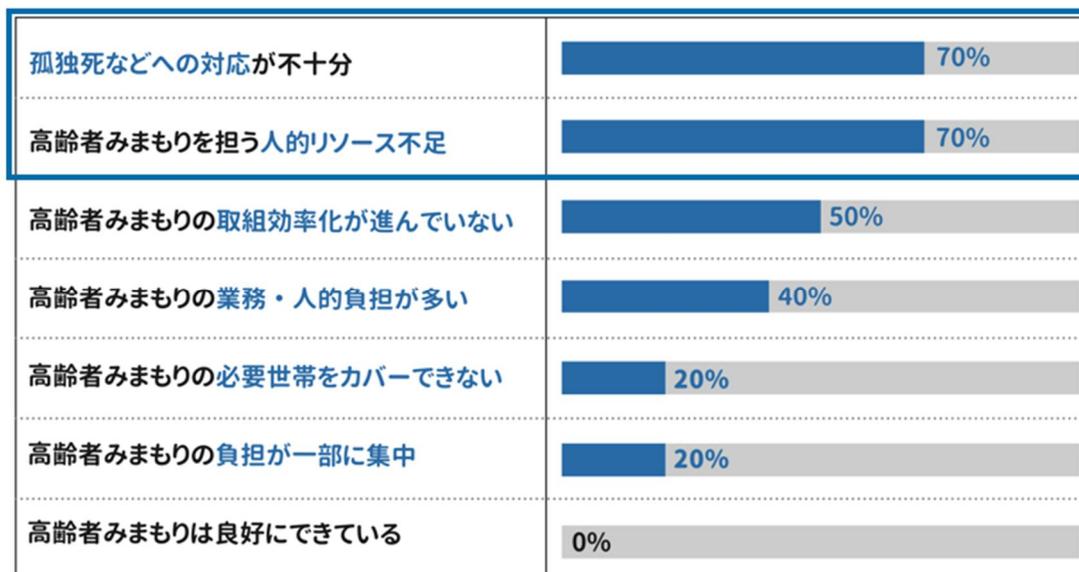
沖縄県においては、全国平均と比較して高齢化率は相対的に低いものの、県内全域で高齢化は着実に進行しています。本県の高齢化率は約23%台で推移しており、高齢者人口の増加が顕在化しつつあります。特に北部地域や離島地域では県平均を上回る高齢化が進んでおり、地域間格差も拡大しています。また、単身高齢世帯や高齢者のみ世帯の増加に伴い、日常生活における見守りの重要性が高まっています。

また、配偶者との死別や未婚率の上昇、平均寿命の延伸による単身期間の長期化に加え、子世代との別居や、住み慣れた自宅での生活継続を望む方も多く、沖縄県では目指すべき高齢社会の基本理念として「高齢者だれもが住み慣れた地域で、生き生きと安心して暮らし、お互いに支え合う地域社会の実現」が掲げられています。

一方で、地域においては、社会福祉協議会や自治会と連携した訪問・声掛け活動、定期的な地域イベントや集いの場を通じた安否確認など、様々な見守りの取組が行われています。しかしながら、沖縄県においても民生委員の担い手不足が課題となっており、地域によっては自治会長と民生委員を兼任しているケースも少なくありません。このような状況の中、限られた人員で広範な見守りを担うことには負担が大きく、取組の持続性に課題を抱えています。

図表6：自治体アンケート調査「現在の高齢者みまもり対応の現状」

沖縄県12市町村大規模社会実証 参加自治体アンケート調査「現在の高齢者みまもり対応の現状」



■自治体 (n=10)

以上のことから、地域の実情に応じて、人による見守りと併せてIT等を活用した支援手法を組み合わせ、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を継続できる環境づくりが求められています。持続可能な高齢者みまもりを実現するにあたっては、ITを活用しながら離れて暮らす家族や地域関係者が協力し、安心・安全な新しいみまもり体制を網羅的に構築する必要があります。

### 3 実績報告

#### (1) 対象世帯の募集及び選定等

県や自治体、当該地域関係者等と連携の上、本事業に参画する対象世帯の募集を行いました。

#### 【事業参加世帯に関する基本的考え方について】

##### ア 参加要件

- (ア) 対象地域内に居住している世帯であること。  
(対象地域：国頭村、大宜味村、東村、伊江村、石垣市、宮古島市、渡嘉敷村、栗国村、南大東村、伊平屋村、伊是名村、久米島町、多良間村、竹富町)
- (イ) 参加者のみまもりについて、当該参加者の居住する地区の自治会や民生委員等の共助の担い手から同意が得られていること。
- (ウ) みまもり支援を受ける必要があると認められる世帯であること。

##### イ 選定方針

事業主旨を踏まえて、以下の順位で優先的に参加者を選定する。

- (ア) 対象地域外から移住してきた単身の高齢世帯
- (イ) 対象地域外に家族が居住している単身の高齢世帯
- (ウ) 上記のいずれにも該当しない高齢世帯
- (エ) 上記のいずれにも該当しない世帯

※ (ウ) 及び (エ) に該当する者については、家庭環境、障害、疾病の有無等みまもり支援を行う必要性を十分に検討した上で選定を行う。

各市町村においては、上記参加要件や選定方針に基づき、担当課・包括支援センター・社会福祉協議会・ケアマネージャー・自治会・民生委員等の推薦により対象者本人や家族への事業説明を実施し、事業への参加を促しました。

#### 【参考：大宜味村における進め方】

大宜味村においては、これまでの取組の中で、事業案内からみまもりサービス導入までのプロセスが確立されており、今年度も同様に以下の流れで実施しました。

対象地区：塩屋区、根路銘区、饒波区

- ① 住民福祉課にて対象世帯（75歳以上全世帯）のリストアップ。
- ② 住民福祉課から対象世帯向けに事業案内文書の発送。
- ③ 対象世帯向け説明会等の実施、申込書受領。
- ④ おきでんCplusCより本人・家族とみまもりキット設置に係る日程調整。  
区長や民生委員と連携し、事業説明・申込書受領を重点地区内で継続。
- ⑤ みまもりキット設置

図表 7：事業説明の様子



【参考：渡嘉敷村他、小規模離島の進め方】

離島地域においては、地域関係者と高齢者との関係性が近いという地域特性を生かし、包括支援センター所属の保健師やケアマネージャーからの推薦により単身高齢世帯を中心に選定し、本人及び家族への事業説明を実施しています。

離島地域においては、伝統的な相互扶助の精神が今なお根付いているものの、自治体職員の業務負担軽減に直結する IT を活用したみまもりの高いニーズが確認されました。家族が日常的な安否確認をアプリ等で担うことにより、行政側の定常的な確認業務を補完する効果への期待が大きく、利用者からは、日常的なみまもりを家族自身が行いつつ、緊急時にはこれまで通り現地の保健師等が従来通り対面でサポートに当たる「ハイブリッド型の体制」に対して高い安心感を示しています。このように、デジタルの利便性と専門職による対面支援の役割分担を明確化することが、離島における持続可能なみまもりモデルの鍵となると考えられます。

その他、地域の関係者及び住民向けの説明会の開催、サービス紹介サイトの作成、利用者インタビュー動画の作成、役場や公民館へのチラシの掲示・配布、各種イベントでの周知活動、個別の問い合わせへの対応など、多様な手法を通じて事業の周知に努めました。

図表12：渡嘉敷村「やさしいみまもり」チラシ



おきでん  
CplusC

**離れて暮らすご家族に  
「寄り添う安心」を  
お届けします**

**「もしも」の不安を安心に変える  
「やさしいみまもり」**

高齢化が進む現代において、離れて暮らすおかあさん、おとうさんの健康や安否は、ご家族にとって大きな心配事です。沖縄発の「やさしいみまもり」は、そんなご家族の不安を軽減し、おかあさん、おとうさんの「いつも通りの暮らし」を変えるみまもりサービスです。

「やさしいみまもり」がご家族にもたらす安心

**24時間365日、どこにいてもみまもり**

スマートフォンでおかあさん、おとうさんの活動状況や睡眠状況をいつでも確認できます。ご自身のライフスタイルに合わせて、無理なくみまもることができます。

**ご家族みんなで負担なくみまもり**

最大3人までみまもり人を登録できるため、一人で負担を抱え込まず、ご家族みんなで協力してみまもることができます。

**大規模な設置工事なし  
利用も簡単**

アプリで設定して、結プラグをコンセントに差し込むだけです。インターネット環境が整っていないご家庭でも、環境整備を含めてご提供いたします。

「いつもと違う」を早期に発見し通知

一定時間動きがない場合や、睡眠パターンに異常があるといった兆候を判定し、ご家族のスマートフォンに通知します。通知をきっかけに熱中症や体調不良などを早期に発見、緊急搬送につながった実績もあります。

ご利用者様（ご家族）の声

カメラは隠されましたが、このサービスは監視感がなく、父もストレスなく使ってくれています。仕事の合間にデータを確認でき、安心です。

90代男性ご家族

通知が届き、父が熱中症で倒れているのを早期に発見できました。このサービスがなければ発見が遅れていたかもしれません。心から感謝しています。

70代男性ご家族

**料金** サービス利用料 月額 **980円**（税込） ※渡嘉敷村では機器代・サービス利用料等が費用負担なしでご利用いただけます。

お問い合わせ方法

導入申請について  
※本事業は、一定の要件を満たした方が対象となります。

**渡嘉敷村民生課 島袋**

**TEL 098-896-4720**

【受付時間】9:00～17:00（土日・祝日・年末年始は除く）

サービス内容等のお問い合わせ

**おきでんCplusC（シープラスシー）**  
カスタマーサポート

**TEL 098-870-9610**

【受付時間】9:00～17:00（土日・祝日・年末年始は除く）

YML-2510-01

図表：民生委員定例会参加による事業周知



図表：大宜味村産業まつり



図表：サービスサイトの開設



図表：インタビュー動画



こうした活動の結果、本事業におけるみまもりサービス導入世帯数は220世帯となっています。その各地域における導入数は以下の通りです。

図表13：サービス導入世帯の属性情報一覧

導入世帯数

(単位：世帯)

	R 4年継続	R 5年継続	R 6年継続	R 7年新規	計
国頭村	3	1	1	14	19
大宜味村	7	6	16	6	35
東村	3	5	7	5	20
伊江村	—	5	2	21	28
石垣市	—	16	17	6	39
宮古島市	—	—	—	11	11
渡嘉敷村	—	—	—	23	23
粟国村	—	—	—	9	9
南大東村	—	—	—	10	10
伊平屋村	—	—	—	6	6
伊是名村	—	—	—	3	3
久米島町	—	—	—	10	10
多良間村	—	—	—	4	4
竹富町	—	—	—	3	3
年度小計	13	33	43	131	220

- ・利用者220世帯の世帯構成は、単身世帯が約8割を占めています。一方で、家族同居および夫婦世帯を合わせると約2割弱にとどまっており、主に単身世帯を中心とした構成となっています。



利用者の年齢構成は、80代以上が多くを占めています。80代以上の高齢者は、転倒や急な体調変化、認知機能の低下などのリスクが高まりやすく、日常的に生活の変化を把握できる見守りの仕組みが求められる年代となっています。

また、おきでん CplusC の事業展開では、利用者（高齢者）に関する基本情報に加え、緊急時の家族等の連絡先をデジタルで整備する「連絡網整備」を実施しています。緊急連絡先については、3名までの家族を登録することができ、家族情報はアプリ上から適宜更新可能です。この連絡網整備により、高齢者の状況変化に応じた情報更新を家族主体で行うことが可能となり、登録情報の陳腐化を防ぐことができます。

なお、緊急連絡先は、利用者および登録者双方の同意があれば、家族以外の友人・知人や自治会関係者を登録することも可能であり、地域の実情に応じた柔軟なみまもり体制の構築が可能です。

図表14：登録情報一覧画面イメージ

### 利用者情報

利用者ID	利用者名	フリガナ	性別	生年月日	住所	電話番号
00000001	*****	*****	●	****/**/**	*****	*****

編集

家族
共助公助
デバイス

#### 利用者家族情報一覧

新規登録
追加

主家族	家族名	フリガナ	続柄	住所	電話番号
★	*****	*****	**	*****	*****
	*****	*****	**	*****	*****
	*****	*****	**	*****	*****
	*****	*****	**	*****	*****

## (2) 対象世帯への「みまもりキット」の設置

対象世帯宅には、居宅内での活動状況等を把握できるよう、弊社サービスの「みまもりキット」を設置いたしました。「みまもりキット」は、以下の機器で構成されています。

### ① みまもりセンサー（3個）

居宅内における人の活動及び睡眠状況を検知するセンサーです。namiが開発・提供するスマートプラグ型の活動・睡眠検知センサーを使用しました。

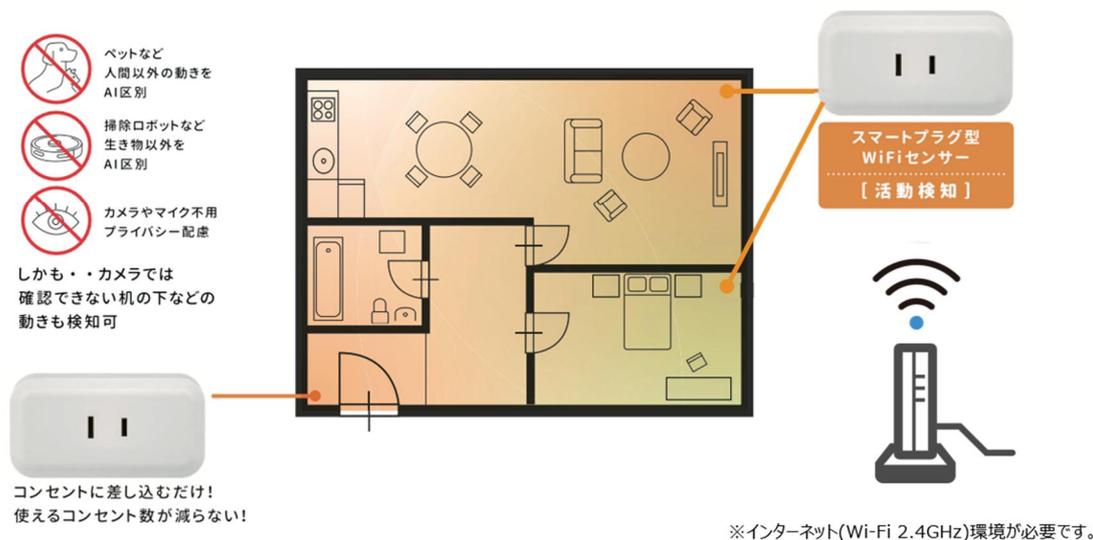
### ② WiFiルーター（1台）

多くの高齢宅にはインターネット環境が整備されていないため、SIMカード挿入型のルーターをおきでんCplusCより提供し、利用者宅のインターネットWiFi環境を構築しました。

図表15：みまもりキット一式

## WiFiセンシング AI みまもりキット

カメラ・マイク・ウェアラブル一切無しだから、高齢者にとって煩わしさゼロ、プライバシーにも配慮。  
世界最先端・標準化規格WiFiセンシングAI技術・機器。ペットや扇風機などを区別して検知。



設置に関しては、おきでんCplusCスタッフが自宅を訪問し、利用者本人または家族に対して、説明・機器設置を行った上で、やさしみまもりアプリのインストール手順説明も併せて実施しました。さらにスマートフォン端末の操作に不安を感じられる利用者に対しては、弊社スタッフから実機を使った操作説明等を行い、利用者が安心して操作できるようフォローしています。

本人または家族によるDIY設置を希望された方に対しては、「みまもりキット」及びその設置マニュアルを郵送し、ご自身でみまもりキットの設置を行えるようにしました。

図表15：やさしいみまもりアプリ



### (3) みまもり支援体制の構築及び運用

上述のみまもりキットの設置により、カメラやマイク、ウェアラブルを使わずに、プライバシーに充分配慮した形で「居宅内の活動状況」及び「睡眠状況」の検知を行い、検知した活動状況・睡眠状況が日毎に確認いただけるようにしました。

図表17：やさしいみまもりアプリ（状況確認画面）



図表18：緊急時の安否確認（みまもり通知）画面イメージ



活動及び睡眠が一定時間検知されない場合、登録されている家族のスマートフォン等に「みまもり通知」をお知らせします。

X<sup>1</sup>（エックスダッシュ）時間：

利用者家族等が任意で設定可能なアラート通知時間。みまもりアプリ（みまもるヒト）から適宜変更が可能であり、X時間よりも短い時間で設定（12時間など）。

X時間：

自治体及びおきでんCplusCにて設定する標準的なアラート通知時間（24時間、36時間など）

Y時間：

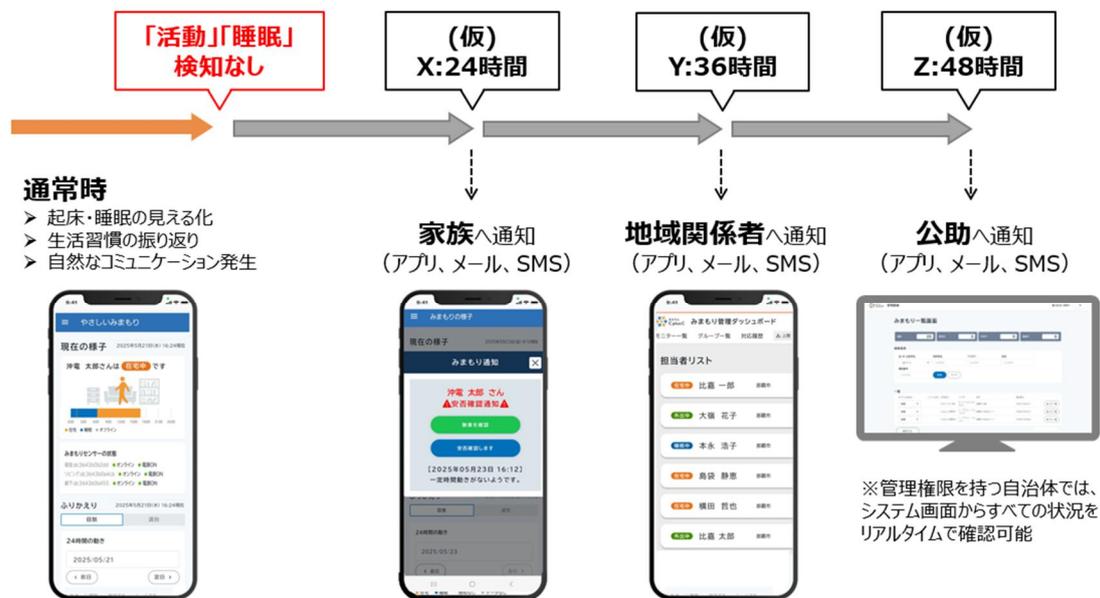
自治体及びおきでんCplusCにて設定する標準的なアラート通知時間（42時間など）

Z時間：

自治体及びおきでんCplusCにて設定する標準的なアラート通知時間（48時間など）

自治体向けには管理画面を用意しており、アラート通知の対応状況や緊急連絡先等を確認することが可能です。

図表19：「みまもり通知」イメージ図



図表20：自治体用管理画面イメージ



みまもり支援体制の運用については、地域関係者（自治体、地域包括支援センター、区長、民生委員等）に対し、本システムおよびアプリの機能について説明を行い、実際に運用を始めています。地域活用の一例としまして、日常のみまもり訪問活動に加え、区長が区内の利用者データを公民館で確認し、区の見守り活動に活用しています。また、離島自治体においては、保健師がデータを確認し、日常のみまもり活動に活用するとともに、アラート通知を受けると自宅を訪問し安否確認を行います。

#### 【地域関係者からのコメント】

##### （自治体コメント）

アラートが発生した際には電話での確認対応後、必要に応じて現場確認を行っていますが、これまで必要であった車で15～30分かけての移動が減り、業務の効率化につながっています。対象年齢以下の参加者の中にも、体調の急変が起こりやすく、日常的な見守りが必要な方がおり、年齢にとられない対象設定が有効だと感じています。

##### （区長コメント）

区の高齢者の異変（睡眠時間の減少、活動量の低下等）を把握することが可能となり、これまでの声掛け中心のみまもりに比べ、より状況に即した、きめ細かな見守りがつながっています。

##### （民生委員コメント）

これまで民生委員として見守り活動を行ってきましたが、アラート通知が上がることで、従来の見守り活動では把握しきれなかった緊急性の高い状況を見落とさず済む点は良いと感じています。

#### 【現在のみまもり支援体制について】

##### ア 地域ごとの連携主体

家族主体のみまもりを基本とし、さらに地域関係者として、自治体の福祉部門、地域包括支援センター、自治会、民生委員等によるみまもり支援体制を構築。

##### イ 連携主体間の役割分担

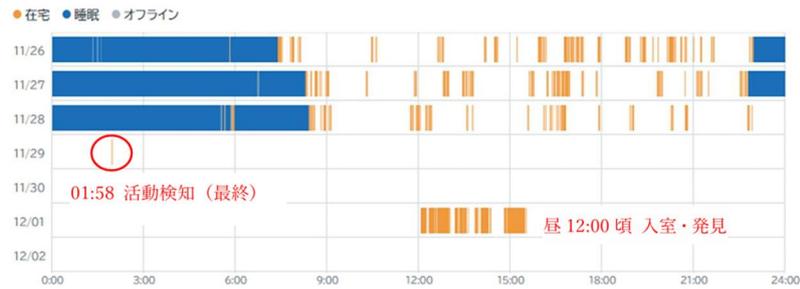
- （ア）自治体：地域包括支援センターや自治会との連携補助。
- （イ）地域包括支援センター：登録・検知情報を活用した適切な支援。家族から連絡があった場合、高齢者宅の状況把握補助。
- （ウ）自治会・民生委員：地域包括支援センターと連携した日常のみまもり活動。家族から連絡があった場合、高齢者宅の状況把握補助。
- （エ）家族等：センサー情報を活用した日常のみまもり活動。みまもり通知を受信した際には高齢者へ安否確認。

### 【事業期間中の事例について】

本事業期間中において、利用者情報を一覧できる自治体用管理画面を自治体・地域包括支援センター職員へ提供しています。

〈ある離島内での孤独死発見事例 アラート受け手として家族登録なしの利用者〉

睡眠・活動の検知状況



- ・ 11月29日（土）01:58 屋内で活動検知（最終検知）
- ・ 11月30日（日）13:59 36時間経過にて家族向けアラート通知（家族登録なし）
- ・ 12月01日（月）01:59 48時間経過にて包括支援センター向けにアラート通知
- ・ 12月01日（月）昼12時頃 保健師が自宅訪問するも応答なし。

村営住宅のカギを管理者に開けてもらい自宅入室。

屋内で亡くなられていることを確認。

みまもりセンサーにより異変を検知後、保健師による早期の自宅訪問により孤独死放置を回避。仮に、みまもりセンサーがなかった場合、異変に気づかずさらに発見が遅れた可能性があります。

自治体より、「今回のケースでは、孤独死が放置されず、ご家族のもとへ帰ることができ、よかったですと思います。おきでん CplusC の取り組みが、住民一人ひとりの安心につながっていると感じました。本当にありがとうございました。」とのフィードバックを頂いています。

(4) アンケート調査の実施

本事業の取組に関して、参加者および地域の関係者に対してアンケート調査を実施し、効果を検証しました。

a. 参加者に対するアンケート調査

本事業の実施地域が離島を含む県内14自治体にわたることから、地理的事情等を鑑み、Webフォーム・アンケート郵送や電話等によるヒアリングを実施しました。

図表21：アンケート設問【参加者の方】

令和8年1月実施

令和7年度 「やさしみまもり」に関するアンケート調査  
【参加者の方】

このたびは、「やさしみまもり」サービスをご利用いただき、ありがとうございます。  
参加中の体験についてお聞きしたく、以下のアンケート調査へ回答をお願いします。  
いただいたご意見は、今後の改善に生かしてまいります。



スマートフォンでも回答いただけます。

Q1. 参加を決めたポイントは何ですか？（該当項目全てに○をつけてください）

<input type="checkbox"/> 沖縄県・自治体への信頼	<input type="checkbox"/> 知人・友人からの推薦
<input type="checkbox"/> 沖縄電力グループへの信頼	<input type="checkbox"/> 健康面への不安から
<input type="checkbox"/> 区長・民生委員等からの推薦	<input type="checkbox"/> 地域の取組に参加したいから
<input type="checkbox"/> 家族からの推薦	<input type="checkbox"/> その他（                      ）

Q2. 期間中良かったこと・困ったことはありましたか？（該当項目全てに○をつけてください）

<input type="checkbox"/> みまもられていて安心	<input type="checkbox"/> 導入の手間が少ない
<input type="checkbox"/> 生活傾向がふり返れて良い	<input type="checkbox"/> 地域住民との関わり合いが増えた
<input type="checkbox"/> 家族と連絡が増えて嬉しい	<input type="checkbox"/> アプリは使いやすかった
<input type="checkbox"/> 区長・民生委員等とのコミュニケーションが増えた	<input type="checkbox"/> アプリの表示や操作がわかりにくい
	<input type="checkbox"/> 不安が増えた

例：活動等を確認することで逆に不安が増えたなど

Q3. みまもりサービスの満足度を教えてください（該当項目に○をつけてください）

<input type="checkbox"/> 大変満足	<input type="checkbox"/> 満足
<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 不満

Q4. そのほか感じたこと・今後の改善点などあれば、自由にご記入ください。

※本取り組みは、令和7年度沖縄県離島・過疎地域づくりDX促進事業（高齢者等のみまもり支援事業）を活用しています。

（裏面に続く）

（表面から続く）

Q5. 最後に参加者について教えてください（該当項目に○をつけてください）

居住地： 国頭村      大宜味村      東村      伊江村      石垣市  
粟国村      渡嘉敷村      伊平屋村      伊是名村      竹富町  
宮古島市      多良間村      久米島町      南大東村

年代                      [ 59歳以下 ・ 60歳代 ・ 70歳代 ・ 80歳代 ・ 90歳代 ・ 100歳以上 ]  
性別                      [ 男 ・ 女 ]

回答者氏名（任意）

---

回答おつかれさまでした。貴重なご意見をありがとうございました。  
書面で回答する方は、回答を記入後、同封の返信用封筒へ封入後、投函してください。

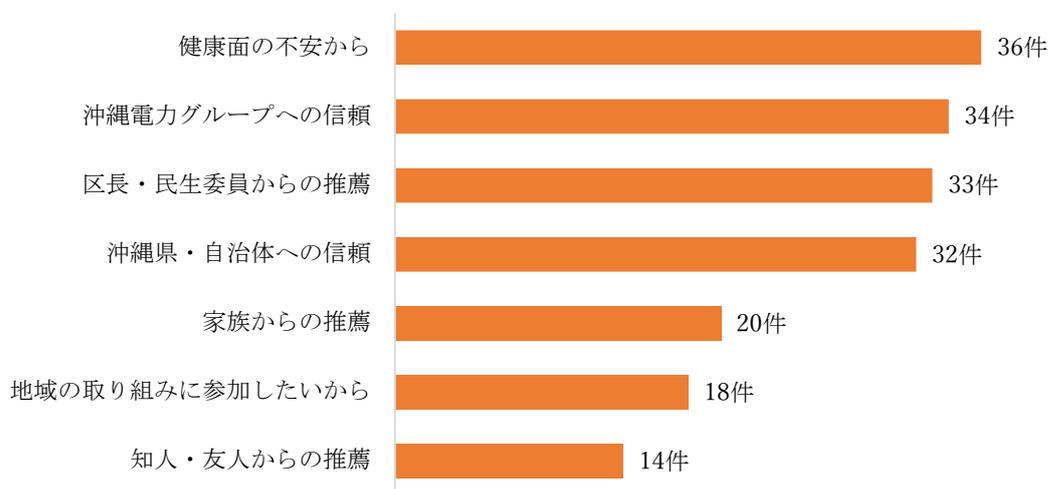
アンケート調査の主な結果については、以下のとおりとなりました。（回答数：98件）

#### 【参加を決めたポイント】

最も多かった回答として「健康面への不安」、次いで「沖縄電力グループへの信頼」「区長・民生委員からの推薦」が続きます。本結果から、参加の動機として最も大きいのは健康面への不安であり、日常生活における安心を求める声が強いことが分かります。

さらに、沖縄電力グループや沖縄県自治体への信頼、区長・民生委員からの推薦といった、信頼できる主体の関与が参加判断を後押ししていることがわかります。

#### Q1 参加を決めたポイントは何ですか？



#### 【期間中良かったこと・困ったこと】

「みまもられていて安心」が最も多く、次いで「生活傾向を振り返ることができて良い」「導入に手間が少ない」「アプリが使いやすい」といった安心感や使いやすさに関する評価が続きました。

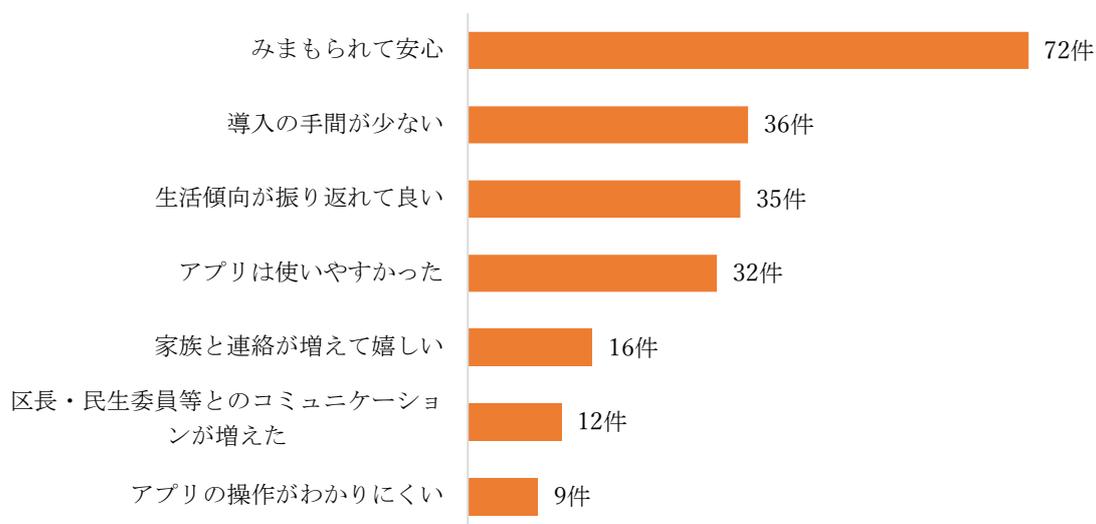
また「家族と連絡が増えて嬉しい」「区長・民生委員とのコミュニケーションが増えた」といった声も多く、人とのつながりを促す効果もうかがえます。実際に、みまもり対象者の選定を地域の区長・民生委員が担ったことで「これまで関わるきっかけが少なかった高齢者とも自然に接点を持つことができ、見守りを通じた関係づくりが円滑に進んだ」との声が寄せられました。

さらに家族からは「これまで把握しきれなかった日々の生活リズムや外出状況を確認できるようになり、親の生活の様子を理解し、振り返る機会につながっている」との評価が得られています。アンケート結果の中には「アプリの操作がわかりにくい」との回答も一

部見られました。特に、みまもる側の家族等も高齢である場合や、デジタル機器の利用に不慣れな方にとっては、アプリ操作のハードルが高かった可能性が考えられます。

今後は、利用者およびみまもる側の理解度やデジタルリテラシーに応じた説明方法の工夫に加え、導入後も安心して利用を継続できるよう、カスタマーサポートによるフォロー体制のあり方について検討していくことが課題と考えられます。

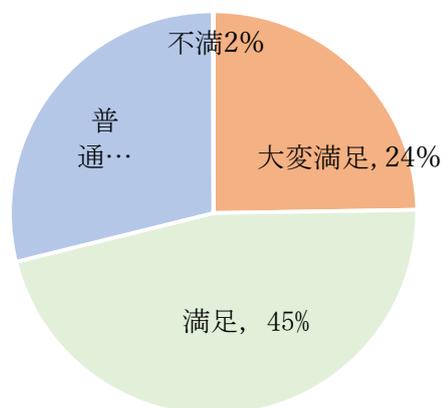
## Q2 期間中良かったこと・困ったことは



### 【満足度】

「大変満足」「満足」を合わせると約7割を占めており、多くの参加者から一定の評価を得る結果となりました。

### Q3 みまもりサービスの取組に対する満足度



(利用者からの評価コメント) ※一部抜粋

〈本人コメント〉

- ・三年前に農作業事故で頭の手術で3～4か月入院による足の筋肉が減って体力的に不安を感じている。いつもみまもってくれてありがたい。
- ・睡眠や活動時間がわかり助かっている。
- ・いつもみまもりしてくれているので安心して生活ができています。
- ・良かったことの第一は近所の人にかけていた負担「みまもり」を減らせたこと。

〈家族コメント〉

- ・独居なので連絡がつかない時「やさしいみまもり」をチェックして安心できた。
- ・毎日の生活の様子がわかるのは、とても安心で良いと思います。24時間の様子がタイムリーに分かる。何かあったとき、気づけるなどが可能になれば更に安心できます。
- ・父はタブレットの使い方を知るきっかけとなり、スマホに買い替え、今ではスマホも使いこなせている。
- ・離れて暮らす家族にとって、高齢の母親がみまもられて安心しています。
- ・電話を自宅にかけなくても携帯で確認ができるからいいと思います。
- ・日頃のみまもり状態を長男から見せて頂き、安心して毎日をすごさせて頂き感謝です。市の予算化の協力を頂き、1人世帯の見守りを今迄のように続けてほしいと願っております。石垣市の民生委員の訪問はまだ一度もないので（神奈川県で民生委員を経験した時には、1人世帯のお宅には良く訪問していました。）「やさしいみまもり」を市でまかなって欲しいです。よろしくお願い致します。

〈改善点に関するコメント〉

- ・動かない時のグラフが寝ているのか、家にいないのか分かりづらい。
- ・昼間も眠っているはずですが、在宅表示だけでなく、睡眠表示にならないものでしょうか。
- ・日中ベッドにいるのに睡眠以外は感知されてなく白い色になっている。センサー別の表示だと良いと思う。
- ・ルーターが外れた場合や停電等お知らせ機能が必要。
- ・長期間留守にする時メールが入り面倒に感じた。
- ・Wi-Fi の関係でたまにオフになる。

b. 地域の関係者に対するアンケート調査

それぞれの自治体・区長・区関係者・社会福祉協議会・包括支援センター・民生委員など、本事業に地域の関係者として参加いただいた方々に対してアンケート調査を行い、10件の回答を得ました。

図表22：アンケート設問【地域の関係者様】表

令和8年1月実施

令和7年度 「やさしいみまもり」に関するアンケート調査  
【地域の関係者様】

このたびは、「やさしいみまもり」サービスをご利用及び、様々なご協力をいただきありがとうございました。  
利用中の体験について、下記アンケート調査にご協力ください。  
いただいたご意見は、今後の改善に生かして参ります。

Q1. 今回の事業へのご協力の背景は何ですか？（該当項目全てに○をつけてください）

- 地域における高齢者とのコミュニケーションが薄れてきた
- 地域における助け合いの意識が薄れてきた
- 地域における急速な高齢化
- 地域における単身高齢世帯の増加
- 地域で春らす高齢者の孤独死の発生に対する不安
- 高齢者みまもり等の業務負担増加
- 地域で春らす高齢者・家族からの不安の声

Q2. 地域における「高齢者みまもり」の現状を教えてください（該当項目全てに○をつけてください）

- 良好にできている
- 高齢者対応において、必要な世帯をカバーできていない
- 「高齢者みまもり」に対する業務・人的負担が多い
- 「高齢者みまもり」を担う人的リソースが不足している
- 「高齢者みまもり」の負担が一部に集中している
- 「高齢者みまもり」取組の効率化が進んでいない
- 孤独死などへの対応が不十分
- 地域で春らす高齢者・家族から問い合わせ・不安の声がある

Q3. 期間中の状況について感想をお聞かせください（該当項目全てに○をつけてください）

- 事業運営は良好
- 導入の手間が少ない
- 高齢者から「安心した」の声
- 地域住民との関わりあいが増えた
- 家族から「安心した」の声
- アプリの在・不在情報は業務に活用出来ると思う
- 地域の高齢者とのコミュニケーションが増えた
- アプリの表示や操作がわかりにくい
- 不安が増えた

例：活動等を確認することで逆に不安が増えたなど

※本取組は、令和7年度沖縄県・道徳地域づくりDX促進事業（高齢者のみまもり支援事業）を活用しています。

（表面に続く）

（表面から続く）

Q4. 来年度以降の高齢者みまもりにどう取り組んでいきたいと思いませんか？（該当項目全てに○をつけてください）

- 設置数を増やしたい
- 社協/包括の関わりを増やしてほしい
- 現状規模の設置数で継続したい
- 高齢者とのつながり(結)  
(みまもり活動にかかわらず、コミュニケーションの増加)
- 地域の「安心」を高めたい
- 自治体の関わりを増やしてほしい
- 地区関係者の連携強化を図る  
(情報共有の仕組みによるDX化等)
- 区の関わりを増やしてほしい
- 住民の高齢者福祉への意識醸成
- 他の地域にも本取組を紹介したい

Q5. みまもりサービスの取組に対する満足度を教えてください（該当項目に○をつけてください）

- 大変満足
- 満足
- 普通
- 不満

Q6. そのほか感じたこと・改善点などあれば、自由に記入ください。

Q7. 最後にご回答者について教えてください（該当項目に○をつけてください）

居住地： 国頭村    大宜味村    東村    伊江村    石垣市  
栗国村    濃嘉敷村    伊平屋村    伊是名村    竹富町  
宮古島市    多良間村    久米島町    南大東村

ご所属    [ 自治体 ・ 包括支援センター ・ 区 ・ 社協 ・ その他 ]

回答者氏名（任意）

回答おつかれさまでした。  
貴重なご意見をありがとうございました。

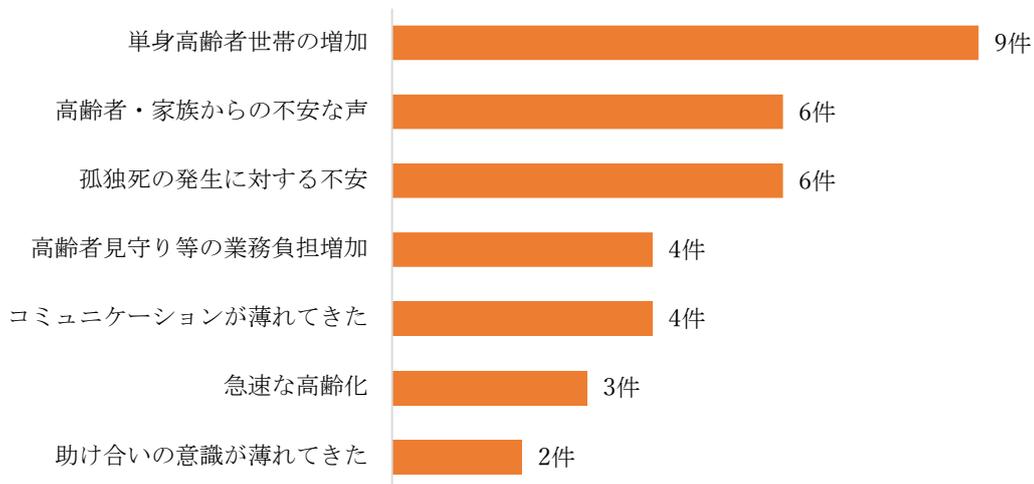
Webでも回答いただけます

アンケート調査の主な結果については、以下のとおりとなりました。

#### 【本事業への協力の背景】

「地域における単身高齢者世帯の増加」、次いで「地域で暮らす高齢者・家族からの不安な声」「地域で暮らす高齢者の孤独死の発生に対する不安」「高齢者みまもり等の業務負担」が続き、高齢化や単身化の進行といった地域課題に加え、現場で対応にあたる関係者の負担や不安が高まっている状況がうかがえます。

#### Q1 今回の事業へのご協力の背景は何ですか？

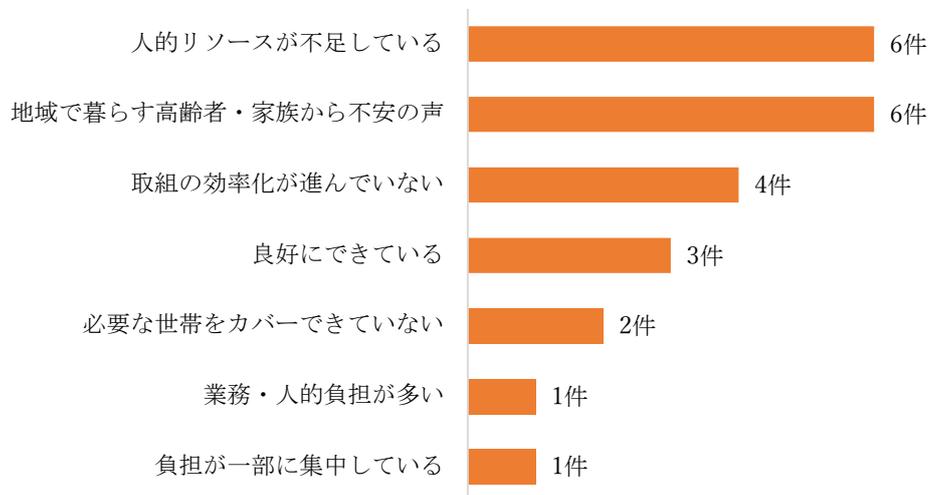


#### 【地域における高齢者みまもりの現状】

人的リソースの不足、地域で暮らす高齢者やその家族からの不安の声の増加、みまもりに関する取り組みの効率化が十分に進んでいないこと、また支援が必要な世帯を十分にカバーできていないといった課題が挙げられました。その背景として、単身高齢者世帯や高齢者のみ世帯の増加により見守り対象が拡大している一方で、自治体職員や地域関係者の人員には限りがあり、従来の人的対応を中心とした見守り体制では対応が追いついていない状況がうかがえます。

また、日常的な見守りや異変時の初動対応において、情報共有や対応の仕組みが属人的になりやすく、結果として見守り活動の効率化が進まず、支援が必要な世帯すべてに十分な対応が行き届いていないことが、関係者の負担や不安の増大につながっていると考えられます。

## Q2 地域における「高齢者みまもり」の現状を教えてください。

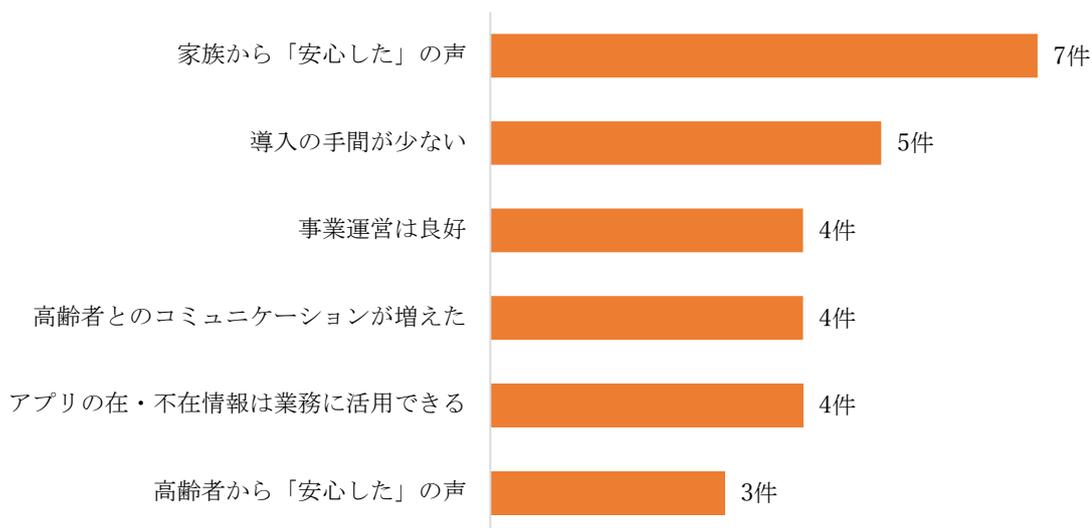


### 【期間中の状況】

「家族から安心したの声」「導入の手間が少ない」「高齢者とのコミュニケーションが増えた」「アプリの在・不在情報は業務に活用できる」の回答が挙げられました。

高齢者宅の在・不在状況を地域関係者にも閲覧できる環境を構築したことで実運用時のイメージが高まったと考えられます。

## Q3 期間中の状況について

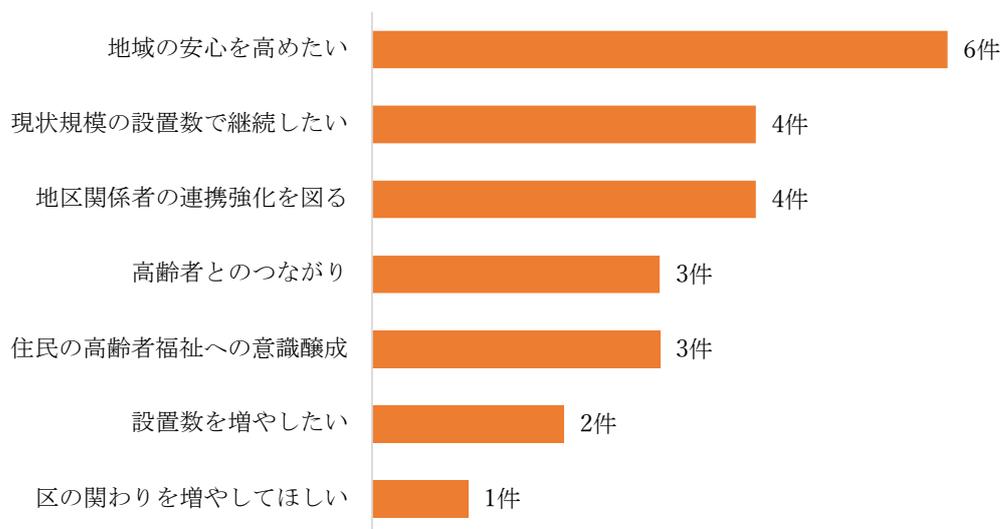


### 【来年度以降の高齢者みまもり活動の方向性】

「地域の安心を高めたい」「現状規模の設置数で継続したい」「地区関係者の連携強化を図る」「高齢者とのつながり」などの回答が多く、多くの世帯への普及を望む声が各関係者

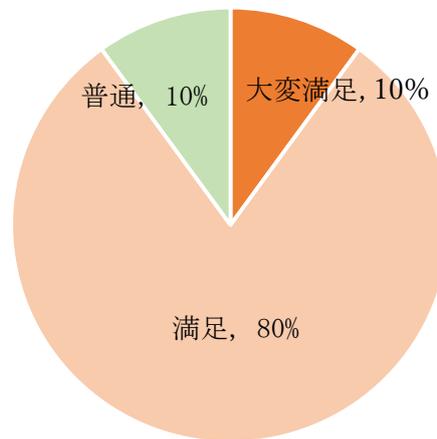
から示された結果となりました。事業を通じて、現場に過度な負担をかけることなく地域の安心感を高められることが確認された点があります。加えて、みまもりをきっかけに高齢者への声かけや日常的な関わりが増えたこと、また、関係者間での情報共有がしやすくなり、連携体制の強化につながったことが、来年度以降も継続したいという意向につながったと考えられます。

#### Q4 来年度以降の高齢者みまもりにどう取り組んでいきたいですか？



本事業のみまもりサービスについては、「大変満足」「満足」と回答した方が全体の8割を超えており、本事業に対して多くの利用者から高い評価が得られました。また、「不満」との回答は見られず、全体として概ね良好な評価結果となりました。

Q5 みまもりサービスの取組に対する満足度を教えてください



(地域関係者からのコメント) ※一部抜粋

- ・ 高齢者自身が入院や旅行で不在になる時はご自身でCplusCへ連絡する等、設置していることに意識を持ってもらい、不足している部分を行政や関係者が入るような体制があると、業務負担の軽減につながるのではないかと感じます。
- ・ 見守りサポートがない方は利用できないので、設置を希望する方が誰でも利用できる仕組みがあるとよいと感じます。
- ・ 行政向けアプリの作成をしてほしい。個人ページを一つひとつ確認する手間があるので、契約者全体をみれるようにしてほしい。
- ・ 転倒検知ができるとうい。利用者が緊急通報をできるとよい。双方向のやりとりでテレビ通話できるシステムがあるとうい。
- ・ 緊急時等のかけつけ機能が入っていれば、さらに安心を得られると思います。
- ・ 地域みまもりは基本足で行うが、天気の悪い日や自身が市内にいない時でもみまもりデータを活用して確認することができるため、民生委員としてのみまもりのやり方に良い変化があった。
- ・ 家族と地域の関係が弱い（村外に住んでいる家族との）

## 4 事業の成果

### (1) 概要

KPIとして設定していた令和7年度新規100世帯への導入について目標を達成しています。本事業は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりを目的に、ICTを活用したみまもりサービスを導入し、自治体・包括支援センター・地域関係者と連携して実証的に運用を行った結果、利用者本人および家族の安心感の向上、導入・運用のしやすさ、地域内コミュニケーションの促進、関係機関間の連携強化といった点で、一定の成果が確認されました。

KPI① ICT等を利用したみまもりを実施する世帯数：100世帯以上 → 131世帯（達成）

※令和6年度以前からみまもりサービスを実施している事業者にあつては、前年度末時点の世帯数から100世帯以上増加させること

KPI② サービス利用の満足度：65%以上 → 達成

- a. 利用者（本人・家族） 大変満足24%＋満足45% 計69%が満足以上と評価
- b. 地域の関係者 大変満足10%＋満足80% 計90%が満足以上と評価

### (2) 詳細

本事業を通じて、自治体職員、区長、民生委員、地域住民等に対し、「やさしみまもり」の事業内容や仕組みへの理解を深めることができました。地域関係者との継続的な対話や説明の機会を重ねたことで、事業の目的や有効性が共有され、地域における見守り手法の一つとして認識が広がりました。これまで本事業は沖縄県の補助事業として実施してきましたが、令和8年度以降、自治体独自事業として実装に向けた動きが進んでいます。具体的には、渡嘉敷村、粟国村、宮古島市、南大東村、伊平屋村、竹富町において独自事業としての実施が予定・検討されており、他地域においても導入に向けた調整が進められています。沖縄県事業としての取組が、各自治体の主体的な事業展開へと発展しつつある点は、本事業の持続可能性および地域ニーズとの適合性を示す成果であると考えられます。

### (3) 自走化に向けて

自走化にあたり、利用者とその家族の役割、自治体・区長・民生委員等の地域関係者の役割、事業者の役割を明確に定める必要があります。また、発生しうる事例に応じて、それぞれの立場からとるべき対応について、一覧表にとりまとめた上、シナリオの作成やシミュレーション等を通して共通認識を持つ必要があります。これまでどおり利用者や家族向けの説明を適切に実施しつつ、自治体関係者向けの説明会や模擬訓練等を開催する予定です。さらに、関係者の役割を明確化した上、その内容については、自治体との協定または覚書等により関係者間での確実な共有を図って参ります。

以 上